

調査報告

幼稚園実習と保育所実習の比較

大 滝 まり子

Comparison of Training of Nursery Teachers
in Nursery School and Kindergarten

OTAKI Mariko

1 調査の目的

本学の幼児保育学科では、幼稚園教諭2種免許と保育士資格を両方取得できる。学生はそのために、2年間に4回、合計10週間の実習を受けることになっている。これらの実習は、(a)1年次1月の保育所実習、(b)2年次5月の施設実習、(c)同6月の保育所か施設の選択実習、(d)8～9月の幼稚園実習という流れをとる。

このうち、2年次の幼稚園実習(3週間)と保育所実習(2週間)では、指導計画(以後「指導案」と表記)を立てて1日実習や部分実習をすることが多い。学生にとっては、この「指導案」と「積極的な実習態度」が大きな課題であることが以前の調査で明らかになった(大滝、2005)。今回は幼稚園実習に役立てるために保育所実習について調査分析したが、今回は幼稚園実習と保育所実習の共通点と相違点を明らか

にしたい。

2 調査の方法

調査対象 幼児保育学科2年生全員に下記の質問紙調査を実施し、提出された幼稚園と保育所の記録から、提出順に各20人分を選び、本研究の資料とした。

調査時期 2006年11月。2年次の実習がすべて修了した時期である。

調査方法 幼稚園実習か保育所実習(2年次)について、質問紙調査を実施した。記入に当たっては日誌を参照するように指示したが、これはできるだけ正確に記録してもらうためである。また、原則として学生は幼稚園実習と保育所実習を両方履修するが、片方のみ履修する学生もいるため、どちらか一方について回答すればよいと指示した。記入に当たり、授業中に20分程度の時間をとり、残りは宿題とした。

調査項目 実習園名、園児数と実習時期を記入後に、下記の質問に答える。

- (1) 実習先での最初の指導内容
- (2) ①楽しかったこと。②うれしかったこと。
- (3) ①つらかったこと、悲しかったこと②難しかったこと。
- ③ (3) の①、②の問題にどう対処したか。
- (4) 実習先の保育で特に印象に残ったこと。
- (5) 注意、指導されたこと
- (6) ほめられたこと
- (7) 完全実習 (1日実習)、部分実習について
 - ① 回数
 - ② 指導案を書いたか
 - ③ 書いた場合の指示・指導
- (6) の③は選択肢と自由記述を組み合わせたが、その他は全て自由記述である。

3 結果と考察

(1) 実習先での最初の指導内容 オリエンテーション、または実習初日に受けた指導内容を調べた。園について理解し、実習態度や心構えを形成する上で大切な指導である。IVの①、

③に見るように、先生に対しても子どもに対しても「積極的に関わること」が求められている。またIV②の「礼儀」とIV⑥の「服装」は、どちらも「マナー」についての心得であり日常生活が反映する事柄である。

(2) 楽しかったこと、うれしかったこと

実習に行くとき不安と、緊張でいっぱいの実習生だが、実習してみると、たくさんうれしいことに出会っている。特に、「子どもから近づいたり、話しかけてくれたり」(I①)、「大好きと言ってくれたり」(I④)して、自分が受け入れられていると感じたときである(I)。また、「一緒に遊んだり」(I②)、「苦勞して準備した設定保育を喜んでくれたとき」(I③)も、うれしかったことが分かる。

興味深いのはⅢである。お別れ会の際の「うれしさ」は、子どもたちに惜しまれたことがその理由であるが、幼稚園では最後に「絵や手紙をもらった」実習生が12人もいる(Ⅱ①)のに、保育所では0である。ちなみに、幼稚園実習から帰ってきた数人の学生から、子どもからの「贈り物」を見せてもらった。みな一様に「宝物」と言っていたのが印象的であった。幼稚園と保

表1 実習先での最初の指導内容 (複数回答)

指導内容	幼稚園 n=20	保育所 n=20	幼・保 計
I 園の保育方針	1	2	3
II 事務的なこと 出退勤、行事、日程、出勤簿、持ち物等	3	3	6
III 守秘義務	3	4	7
IV 実習態度、内容			
① 積極的に行動する。元気にたくさん遊ぶ。	12	8	20
② 礼儀、挨拶、言葉遣い	7	4	11
③ 先生への連絡(特に子どもの怪我)や質問を積極的に	6	6	12
④ 体調管理	6	3	9
⑤ 日誌、指導案の書き方、提出	5	0	5
⑥ 服装(Gパン禁止)、動きやすく、清潔に、髪はまとめて等	4	2	6
⑦ 考えて行動する	4	0	4
⑧ 子どもや先生の動きをよく見る	3	3	6
⑨ 課題や目標を持って実習する。	1	1	2
⑩ 技術的なこと ピアノ、絵本読みなど	2	2	4
⑪ 掃除	2	0	2
⑫ 課題や目標を持って実習する	1	1	2
⑬ 子どもの気持ちや個性を尊重する	0	3	3
VI 衛生、安全への配慮	0	4	4
VII その他 けんかへの対応、遊びの選択、かみつき	0	5	5

育所の、この点の違いは予想外ではあったが、いくつか理由が考えられる。第1に、保育所実習は2週間で、その間に各年齢を2、3日間ずつ回ることが多いが、幼稚園実習は3週間であり、特定のクラスに入ることが多いため、子どもたちとの結びつきが強まり、実習生に贈り物をする気持ちになるのではないか。第2に、幼稚園では設定保育が保育所よりも多いため、その中で、手紙や絵を用意できるということも考えられる。ただし、個々の園によって事情は異なると考えられるので、調査対象を増やせば、保育所でも「贈り物」を受け取る場合があるかもしれない。第3に、保育所の入所児は3歳未満児もいるため、手紙が書けず、絵もおぼつかない場合があるということが考えられる。

Ⅳの「先生とのかかわり」について、保育所実習で言及されていないのは、Ⅲで述べたことと同様、実習生がひとつのクラスに長く所属しないことが多いためかもしれない。

保育所実習では1年次と同じ園に実習に行くことが多いことから、「子どもたちが覚えてい

てくれた」、「1年次にはさせてもらえなかったことを今度は経験できた」という、2回目、2年目ならではのうれしさが見られた。また、Ⅱでは「初歩行を見ることができた」という内容もあり、これも保育所ならではのことである。「子どもの発達の大きなステップを保護者よりも先に見ることが多く、うれしい半面申し訳ないような気持ちもある」とかつて巡回先の先生に聞いたことがあるが、こういううれしさを経験することも、保育士の仕事の魅力のひとつであろう。

(3) -1 ①つらかったこと、悲しかったこと「つらかったこと、悲しかったこと」と「難しいと感じたこと」は重なる場合もあるが、多くの学生が区別して書いていたため、筆者はそれに習い、自由記述を二つに分類・整理した。

実習生は緊張感と不慣れな仕事の中で、さまざまな悩みに直面する。「困ったときには先生たちに積極的に聞いてほしい」と指導されてはいても、なかなか声をかけるタイミングが見つ

表2 実習でうれしかったこと、楽しかったこと(複数回答)

内 容	幼稚園 n=20	保育所 n=20	幼・保 計
Ⅰ 日々の保育			
① 子どもから近づいてくれた	7	6	13
② たくさん遊んだ・遊びを教えてくれた	6	7	13
③ 自分の保育を喜んでくれた	5	3	8
④ 大好きといわれた	4	1	5
⑤ 先生と呼ばれた	4	1	5
⑥ 優しさにふれた	1	0	1
⑦ 行事の手伝いができた	0	2	2
⑧ 言葉かけが伝わった	0	2	2
⑨ 1年次の実習に来たことを覚えていてくれた	—	4	4
⑩ 1年次にできなかった0、1歳児のオムツや食事の世話をできた	—	1	1
Ⅱ 子どもの成長・発達・初歩行を見ることができた ほか	2	3	5
Ⅲ お別れ会で			
① 子どもたちから絵や手紙をもらった	12	0	12
② 子どもの歌、自分が泣いたら子どもがもらい泣き	1	2	3
③ 辞めないでといわれた	1	0	1
Ⅳ 先生とのかかわり			
① 反省会を開くなど、親切に指導してくれた	2	0	2
② 副園長先生にほめられた	1	0	1
③ 幼稚園時代の担任が実習を見に来てくれた	1	0	1
Ⅴ 保護者とのかかわり			
① 子どもたちと写真を撮ってくれた	1	0	1
② 行事の準備を一緒にできた	1	0	1
Ⅵ その他 1年次の実習との違い、障害児とのかかわり	2	2	4

けられず、つらくても、難しいと感じる仕事でも、自分の中に抱え込んでしまい、ますます悩んでしまうという悪循環に陥ることもある。

まず、「つらかったこと、悲しかったこと」について、Iで「運動会の練習で普段の保育と異なっていた」ことが上げられている。実際、筆者が実習巡回に行くと、園の先生から「運動会の練習中で、いつもどおりの指導ができず実習生に申し訳ない」と言われることがある。これは確かに残念な面もあると思うが、表2のIIの中には、「運動会の練習をはじめから経験して、子どもたちの成長を見ることができた」と

いう事例も含まれている。それぞれの状況下で学ぶことは必ずあるので、よい面にも気づいていると期待したい。

VIの「プレッシャー・ストレス・体調不良」では幼稚園の0に対して、保育所では6である。幼稚園は最後の実習なので、経験を生かしてストレスにうまく対処できたり、実習に慣れてあまり緊張しなかったのかもしれない。

(3) - 2 難しいと感じたこと

0, 1歳児への言葉かけや世話が難しかった(I①の保育所の7人中6人)のは、1年次で

表3-1 つらかったこと、悲しかったこと

内 容	幼稚園 n=20	保育所 n=20	幼・保 計
I 日々の保育			
① 運動会の練習で普段の保育と違った	2	0	2
② 母子分離場面で泣いている場面	2	0	2
③ 担当クラスの年齢ギャップ	1	0	2
④ 約束が守れず、うそつきといわれた	0	1	1
⑤ オムツ交換など	—	1	1
II 子どもたちとの別れ	5	0	5
III 完全実習・部分実習			
① 指導案 詳しく書く。書き直し。突然内容変更。	4	1	5
② 指導の失敗、そのため注意されたこと	2	0	2
IV 日誌の書き方	1	2	3
V 先生とのかかわり			
① 先生によって指導が食い違う	1	1	2
② 一所懸命やっているのに急がされた	1	0	1
③ 細かいことも報告を求められた	1	0	1
④ 先生同士の中が悪い	1	0	1
VI 体調その他			
① プレッシャー・ストレス・体調不良	0	6	6
② 給食の量が多い、遅くまで勤務、暑い時期だった	3	1	4

表3-2 難しいと感じたこと

内 容	幼稚園 n=20	保育所 n=20	幼・保 計
I 日々の保育			
① 個々の子どもへの対応、遊び方、(保育所)未満児への対応等	3	7	10
② 障がいのある子への指導	2	1	3
③ エレクトーン、ピアノ	1	1	2
④ けんかへの対処	1	4	4
⑤ 無意識に子どもに背を向けてしまうこと、考えて動くこと	2	0	2
⑥ 午睡の介助	0	2	2
⑦ 保育の流れ	0	2	2
II 完全実習・部分実習			
① 子どもの前での指導	6	2	8
② 指導案の書き方	1	2	3
III 先生とのかかわり			
① 言葉遣い、お茶の出し方	1	1	1
② 運動会で現職者と同じ動きを求められた	1	0	1

あまり経験していないためと思われる。保育所では「けんかへの対応」(Ⅰ④)も幼稚園より多い。これに対して、幼稚園では完全実習・部分実習に関する難しさが目立っている。「子ども前での指導」は6人である(Ⅱ①)。このように、保育所では生活面で、幼稚園では設定場面で「難しい」と感じているようである。

(3) - 3 (3) - 1, 2の問題にどう対処したか

次に(3)-1, 2で示されたつらかったこと、難しいと感じたことに、どのように対処したのかを調べた。結果は大別して、表3のⅠ～Ⅲのようになった。Ⅰの「先生に指導を受ける」ことは、主に保育技術や方法について「難しいと感じたとき」の対処法に選ばれている。これに対して、Ⅲは、Ⅰとほぼ、同数だが、主に「つらいと感じた」精神面の問題や、本来事前にやっておくべきことに対して選ばれている。また、Ⅱの「観察してまねる」ことも、保育方法を身につけるために役立つことが分かる。

この質問では、自分で問題点を見出した場合と先生から指摘された場合とを区別していないが、記述内容から判断すると、指導に対しては「難しいと感じながらも」それに素直に従う姿勢が見られた。また、1度だけの完全実習、部分実習の失敗は、解決するというより、反省会で指導を受け、「今後はしっかり準備する」と

いう思いにつながっている。

保育所で積極的に質問相談出来なかった分、幼稚園ではⅢが減って、積極的に指導を求めるようになるのではと予想したが、大きな変化は見られなかった。

(4) 実習先の保育について、特に印象に残ったこと

幼稚園では習い物が多いこと(Ⅱ)、保育所では縦割り保育が多いこと(Ⅲ)が分かる。但し、幼稚園でも縦割り保育を取り入れていたことは他の記述から分かるので、ここの回答はあくまでも「実習生の受けた印象」であることに留意したい。保育所実習で印象的だったことでも、その後の幼稚園実習で同じような保育に触れた場合は、もはや印象的とはいえないことが考えられる。

幼稚園では「分かりやすく、丁寧な話し方」(Ⅲ)、保育所では「わらべ歌、激しい遊び」などの「遊びに関すること(Ⅱ)も印象に残ったようである。

(5) 注意や指導を受けたこと

保育所実習では「積極性」と「指導案」の二つが、実習生が指導を受けた主項目であった(大滝、2005)。今回も表5に見るように、「積極性」(Ⅰ)、日誌・指導案(Ⅱ)が示されている。保育所では未満児への対応に難しさを感じるこ

表3-3 つらい、難しいと思ったことにどう対処したか

対 処 の 方 法	幼稚園 n=20	保育所 n=20
Ⅰ 質問したり、反省会で指導を受けた。 (例)(幼稚園)指導案の書き方。完全実習で子どもが落ち着かない。 (保育所)未満児について…人見知り、おむつ交換、着替え、食事 グリーゾーンの子どもへの援助。	11	10
Ⅱ 先生のことを観察、真似した。 (例)(幼稚園)運動会で、先生の動きをまねて行動し、少し安心して子どもと接することができた。	2	2
Ⅲ 自分で考えたり、努力した。または、今後努力する。 (例)普段から意識的に動くようにした。 先生方の忙しさを理解して、つらさが減った。 自分で考えて動くようにする。 完全実習、部分実習について事前に準備、練習する。	11	13

表4 実習先の保育について特に印象に残ったこと

内 容	幼稚園 n=20	保育所 n=20	幼・保 計
I 園の基本方針			
①宗教教育、はだし保育など保育方針	2	4	6
②掃除、整理整頓の徹底	3	0	3
II 保育内容			
①特別な学習・練習：英語・サッカー・リトミック・漢字	4	0	4
②日常の保育：(幼稚園)音楽鑑賞、手話、自然体験 (保育所)食育、わらべ歌、激しい遊びも	3	1	4
③安全指導：迷子に備えて住所・氏名・電話番号を言う	0	3	3
④安全指導：迷子に備えて住所・氏名・電話番号を言う	1	1	2
III 保育方法			
①一人ひとりを大切にす 子どもの気持ちを重視	2	4	6
②話し方 分かりやすく、丁寧な言葉遣い	4	0	4
③縦割り保育を取り入れている	1	5	6
④子どもたちにできることは、子どもたちにさせる	1	1	2
⑤絵本を重視 読み方、読む機会が多い	1	1	2
⑥大掛かりなパネルシアター、エプロンシアター	1	0	1
IV 保育者のあり方			
①協力・連絡しあう 相互の連絡、園長の役割	2	1	3
②保育者自身が楽しむ	0	2	2
③表情が大切	0	1	1
④人的、物的環境に配慮する	1	0	1
⑤クラスによって雰囲気の違いがある	1	0	1

表5 注意や指導を受けたこと

内 容	幼稚園 n=20	保育所 n=20	幼・保 計
I 日々の保育			
①積極性、笑顔、もっと元気に楽しく。大きな声で。 (保育所)特に低年齢児に対して。	7	10	17
②子どもの動きをよく見る	4	0	4
③保育の流れを把握して言葉をかける、かかわる。	2	3	5
④一人ひとりに合ったかかわりをする。	2	1	3
⑤安全への配慮	0	1	1
II 礼儀、言葉遣い、服装	1	2	3
III 日誌、指導案、部分・完全実習			
①子どもに分かりやすく話す。先生らしく話す	4	5	9
②詳しく書く。誤字脱字に注意する。話し言葉を使わない。	4	3	7
③提出物の期限を守る。	1	0	1
④製作物の準備について	1	0	1
IV その他	3	2	5

表6 ほめられたこと

内 容	幼稚園 n=20	保育所 n=20	幼・保 計
I 日々の保育			
①笑顔、雰囲気	10	7	17
②積極的に遊ぶ、子どもとの信頼関係	6	7	13
③技術(紙芝居、絵本、ピアノ、自己紹介の仕方)	6	3	9
④一人ひとりに応じた対応、子どもの長所に気づく	6	1	7
⑤声の大きさ、話し方	2	1	3
⑥全体を見て保育	1	0	1
II 礼儀、言葉遣い、服装	0	1	1
III 積極性、学ぶ姿勢、先生の仕事を手伝う、よく気がつく	13	5	18
IV 指導案、部分・完全実習の準備がよく出来ていた	5	3	8
V その他 体調管理など	2	3	5

を、前述の(3)－2で確認したが、やはり指導を受けたのもこの点であり、とりわけ保育所での3歳未満児に対するかわりが課題のひとつである。

(6) ほめられたこと

日々の保育でも、積極的な態度の面でも、幼稚園実習の方が保育所実習よりもほめられることが多い。最後の実習ということから、思い切っけて子どもとかかわろうとするからか、実習に慣れてきたためなのかは分からないが、保育所実習のときよりも、努力している姿が見える。

(7) 完全実習、部分実習について

幼稚園実習と2年次の保育所実習では、完全実習(一日実習)と部分実習があり(両方合わせて責任実習といわれることもある)、その場合に指導案を書くことが一般的である。今回、完全実習等の回数について、幼稚園と保育所とは大きな違いがあることが分かった。

表7-1には、完全実習と部分実習の組み合わせを作り、幼稚園と保育所との件数の違いを示した。この表に見るように、幼稚園では完全実習を経験したものは20人中18人、保育所では6人である。しかし、完全実習は1日実習または全日実習とも言われるように、園の全保育時間を通しての責任実習であり、基本的には幼稚園で4時間、保育所で8時間となる。そのため、保育所の部分実習は幼稚園の完全実習と、実質的に同じ長さということも考えられる。

幼稚園、保育所をあわせると、40人中38人が指導案を書いており、幼稚園では全員である(表7-2)。表7-1を見ると、幼稚園では完全実習1回のみが1人、部分実習1回のみが1人で、残り18人は完全実習と部分実習を合わせて複数回書いている。これに対して、保育所では1度も書かなかったのが2人であり、部分実習を1回のみというケースが11人である。

これらの数字を見ると、保育所のほうが「指導計画をあまり書かない」ということが分かる。また、幼稚園でも、部分実習では指導計画を書かない場合もある(表7-2)。

それでは、指導計画を書くにあたり、どのような指導を受けたのであろうか。表の7-3に示したように、最も多いのが①「詳しく書くように」ということである。この点は日誌の記録にも言えることであるが、情報や知識を十分に持っていて、それを整理する力が無ければ詳しく書くことはできない。また、④「誤字・脱字についての指導」(17人)に関しては、短大で

表7-1 完全実習、部分実習の回数

完全・部分実習の組み合わせ	幼稚園 /n=20	保育所 /N=20
完全実習 1回	0	1
完全実習 1回 部分実習 1～3回	9	4
完全実習 1回 部分実習 4～11回	6	0
完全実習 2回 部分実習 1回	1	0
完全実習 2～5回 部分実習 3～10回	2	1
部分実習 1回	1	11
部分実習 2～6回	1	3

表7-2 指導計画を書いたか

指導案を書いたか	幼稚園 n=20	保育所 n=20	計
書いた (部分実習では書かないこともある)	20 (2)	18	38
書かなかった	0	2	2

表7-3 指導案についての指導内容(複数回答)

指導案についての指導内容	幼稚園 n=20	保育所 n=20	計
①詳しく書くように	10	12	22
②図を入れるように	5	6	11
③選んだ内容と子どもの年齢・発達にずれがある	5	2	7
④誤字・脱字を訂正する	9	8	17
⑤用語・文章表現	7	4	11
⑥保育内容を指定された	2	2	4
⑦「ねらい」について	6	1	7
⑧その他 指導案と教材を一緒に提出する	3	0	3

のレポートや試験の際にも常に指導していることであり、「辞書を携帯するように」という実習時のいわば対症療法のような指導では不十分であることが示されている。同様に、「日誌に話し言葉を使わない」ことを含めた⑤「文章表現」も、短大での指導についての課題を示している。

②「図を入れる」、③「選んだ内容と子どもの年齢・発達にずれがある」、⑥「保育内容を指定された」、⑦「ねらいについて」は、実習ならではの問題であるが、事前にある程度の準備ができると考えられる。

4 まとめ

これまで、学生に幼稚園実習と保育所実習について指導する際、制度的な特徴と経験的に理解した特徴をもとに説明してきたが、今回の調査によって両者の違いがさらに明らかになった。

- 幼稚園実習の方が、実習生は子どもたちと深く関わる傾向がある。
- 幼稚園実習では指導案を書いて完全実習や部分実習をすることが多い。
- 2年次の保育所実習では未満児、特に0,1歳児の世話に戸惑うケースが多い。
- 幼稚園では、何かを教えることが、保育所よりも重視されている。

共通点としては、

- どちらの実習でも積極的に行動し学ぶことが大切で、難しいと感じたことは積極的に先生に質問することが解決策である。
- 指導案や日誌を書く場合の文章表現力を養い、正しい漢字を書くように努力することが大切である。

ただし、これらのことは本学の幼稚園実習と保育所実習の条件に影響を受けている面がある。例えば、それは、実習期間の長さが実習の

内容に影響していると思われる点がいくつかあるからである。子どもたちや保育者とのかかわり方は、実習期間によって深くも浅くもなる。またそれにより、実習生の学び方や、実習期間内での成長にも違いが出るであろう。実習の時期も、実習内容を決める条件として重要である。本研究は、こうした制約の上に幼稚園や保育所の実習が行われていることについて理解を深め、実習の改善と学生への指導に役立つものとする。

参考文献

- 大滝まり子 保育所実習Ⅱについての学生の認識 北海道文教大学研究紀要第29号 2005
 小館静枝 他 新版幼稚園・保育所実習のよく出会う問題とその対応 萌文書林 1992
 鈴木みゆき 他 最新・保育実習まるごとBOOK 小学館 2000

(2007年1月25日受稿)

Abstract

Students of this college experience two kinds of training, a nursery teacher in a nursery school and a kindergarten teacher in a kindergarten. Making plans for the nursery is important and a difficult task for the trainees. (1) In the kindergarten training, all students made some plans. In nursery school 90% of them made plans, and 60% of them made just one plan .

(2) In kindergarten, the children gave pictures and letters to the students, and the students felt sad when they finished the training. In nursery school no student were presented with those things and they didn't feel so sad. These two facts may be dependent on training terms and the age of children.